



ネパール政府（科学技術省）と九州大学との科学技術交流に関する覚書締結  
及び海外の遺伝資源移転に関する国際シンポジウムの開催

## 概 要

九州大学とネパール政府は、相互の科学技術の交流とバイオテクノロジーの研究領域を中心とした研究連携を進めることに合意し、平成22年2月9日（火）に九州大学において、「ネパール政府と九州大学の科学技術交流」に関する覚書の調印式を行うこととなりました。

また、これを記念して、平成22年2月10日（水）に「遺伝資源の海外移転に関する国際動向と今後の課題」と題したシンポジウムを九州大学で開催します。

## ■背 景

九州大学は、バイオテクノロジーの領域では特徴的・先端的な研究を行っています。またネパールには、多様な気候を持ち、そのために多くの生物資源、遺伝資源、伝統技術を有しています。これまで、九州大学の教員レベルにおいては、ネパールの研究者との交流があり、それらの実績から、ネパール政府側からも九大と連携し、先端研究の技術・知識をネパールに移転してほしいとの要望がありました。

このような経緯を経て、このたび、九州大学及びネパール国相互の技術・資源を利用した、新しい研究領域への推進・発展を計画し、覚書を締結することとなりました。

## ■内 容

今回の覚書では、ネパール国アカデミアと九州大学は、相互の利益をもたらすことの出来る研究領域を設定し、それらの技術情報の交流、研究者の交流、ジョイントラボラトリーの設置などを積極的に進めていくこととなります。

ネパール政府が海外の大学と組織的に連携し、研究を推進するのは今回が初めてであり、両国の科学技術振興を積極的に推進します。初めの具体的な研究計画として、ネパールの保有する多様な伝統的発酵食品の調査、サンプリング、それらに含まれる菌の単離と同定、健康機能などの解析を中心に行い、共通の研究資源としての発酵食品のデータベース、微生物のライブラリーの構築を行うとともに、それらの研究資源を用いた相互の研究推進を行っていく計画です。

今後、さまざまなネパールの農業用植物、薬用植物などもライブラリー化し、これらの遺伝資源を活用した、農業、環境、創薬などに関する研究プロジェクトも計画しています。

さらには、今後はネパールと九州大学のみでの連携にとどまらず、これらのライブラリー化された遺伝資源を用いた日本国内の産業界（バイオ産業、食品産業企業等）との連携による国際産学官の研究コンソーシアムなどを構築し、日本における産業の振興へ展開していく計画です。これらの取り組みは、先進的な取り組みであり、日本における国際産学連携の新しい形を提案していきます（添付図）。

## ■効果

ネパールの科学技術振興とネパールの所有する遺伝資源を活用した九州大学の新バイオテクノロジー研究領域の伸展、さらには、国際的な産学官連携の体制が構築できます。また、海外の政府と大学が、生物多様性条約の精神に則り、研究交流協定を締結することは、日本で初めての取り組みであり、今後の大学が海外の遺伝資源を活用した研究モデル事例にもなります。

これらの包括的な枠組みの中で、学生および教員の交流等を行い、九州大学とネパールの相互の国で教育を推進することにより、九州大学における新領域への研究推進とネパール国アカデミアへの科学技術の振興を助け、さらに九州大学のサテライトラボ等をネパールに設置し、双方研究者のための研究拠点として、相互の研究レベルの向上、研究推進に貢献することが可能になります。

## ■調印式

日時：平成22年2月9日（火）10：00～10：30

場所：九州大学本部特別応接室（箱崎キャンパス本部第1庁舎2階）

出席者：ネパール科学技術省 Secretary Dr. Ram Hari Aryal 事務次官

（ラム ハリ アリアル、事務次官）

Plant Protection Officer Mr. Padam Raj Devkota

（パダム ラジュ デェブコダ、植物保護課長）

九州大学

有川 節夫 総長

水田 祥代 理事・副学長

安浦 寛人 理事・副学長

吉村 淳 農学研究院長

深見 克哉 知的財産本部特任教授

秋山 和男 国際部長

内容：学術交流協定書の調印、代表挨拶、記念撮影、記者会見

参考：調印式は英語で行いますが、記者会見はネパール語の通訳を介して行います。

## ■記念国際シンポジウム

今回の覚書締結に際しては、科学技術交流のもう一つの側面である、遺伝資源の国際間の移転という問題があり、その点について積極的に九州大学は取り組んでいます。今年、名古屋にて生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）が開催されますが、海外の遺伝資源を活用する際の、生物多様性条約、その他国際条約による研究への影響も大きく出て来る可能性が有ります。農林水産省、バイオインダストリー協会、国立遺伝学研究所、甲南大学から講演を行い、それらの問題点について理解を深めて、さらに、九州大学の取り組みについても紹介するシンポジウムを調印式の翌日、2月10日に開催いたします。

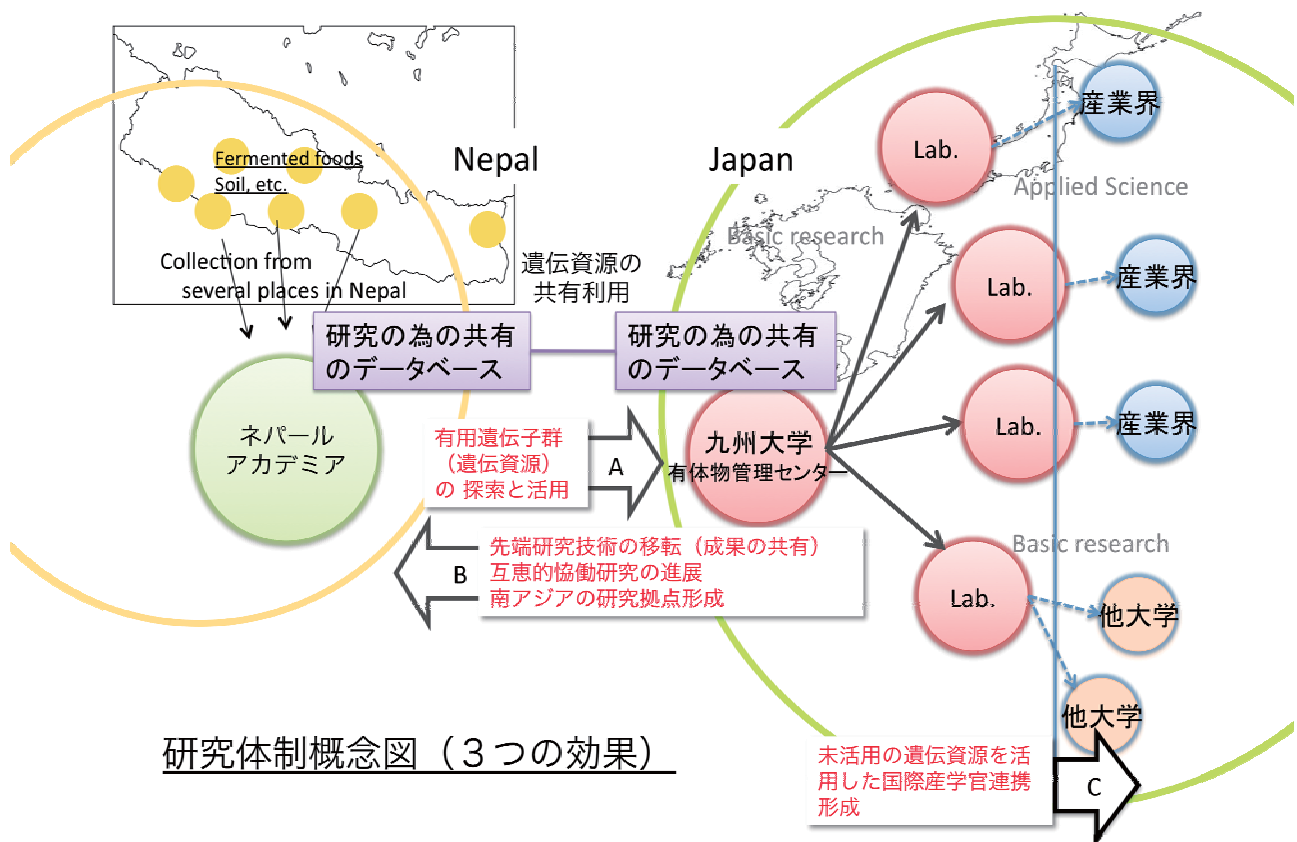
日時：平成22年2月10日（水）13：30～17：35

場所：九州大学医学部百年講堂大ホール（九州大学病院キャンパス）

福岡市東区馬出3-1-1

※ プログラムについては添付のチラシを参照願います。

今回のネパール政府との協定に基づく研究計画



研究体制概念図 (3つの効果)

【お問い合わせ】

知的財産本部特任教授 深見克哉

電話：092-642-7130

携帯：080-3023-0985

FAX：092-642-4365

Mail：[kfukami@imaq.kyushu-u.ac.jp](mailto:kfukami@imaq.kyushu-u.ac.jp)

遺伝資源国際シンポジウム  
遺伝資源の海外移転に関する  
国際動向と今後の課題

Current Topics concerning the Transfer of Genetic Resources  
- Global Trends and Future Issues -

入場  
無料

平成22年  
2月10日(水)  
13:30~17:35

九州大学医学部  
百年講堂大ホール  
(馬出地区)



プログラム

シンポジウム (13:00 ~ 17:35)

- 13:00 ~ 13:30 受付
- 13:30 開会挨拶 安浦 寛人 九州大学 理事・副学長
- 13:40 招待講演  
Science and Technology Development in Nepal  
Dr. Ram Hari Aryal Secretary  
Ministry of Science and Technology
- 14:15 食料及び農業のための植物遺伝資源に関する  
国際条約(ITPGR)の状況と展望  
白井 正人 氏 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課
- 14:50 生物多様性条約の現状と今後(アカデミアにおける問題点等)  
炭田 精造 氏 バイオインダストリー協会 生物資源総合研究所長
- 15:25 休憩(コーヒープレイク)
- 15:40 アカデミアにおける生物遺伝資源の流通の在り方  
-公共性とイノベーション持続の確保の観点から-  
鈴木 睦昭 氏 国立遺伝学研究所 知的財産室 室長
- 16:15 生物多様性マネージメント(CBD)の現状と課題  
-南アフリカにおけるABSの事例を中心に-  
Dr. Manoj Lal Shrestha 甲南大学 経営学部 教授
- 16:50 九州大学有体物管理センターの取り組みについて  
深見 克哉 九州大学 知的財産本部技術移転グループ  
有体物管理センター
- 17:25 閉会挨拶 吉村 淳 九州大学大学院農学研究院長
- 意見交換会 (17:40 ~ 19:00) ※会費: 2,000円

主催

九州大学 大学院農学研究院  
九州大学 知的財産本部

お問い合わせ先

九州大学 知的財産本部  
〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6丁目10-1 VBL棟3階  
TEL: 092 (642) 4431 FAX: 092 (642) 7128  
E-Mail: plan@imaq.kyushu-u.ac.jp URL: <http://imaq.kyushu-u.ac.jp>

お申込みの方は、裏面へ